

恵 山

○ 11 月の火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏な状況です。

○ 11 月の活動概況

・ 火口や噴気の状態（図 2～図 4）

12 日～14 日に現地調査を実施しました。X 火口及び Y 火口では噴気や火口の状態に特段の変化はありませんでした。また 11 月 13 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しましたが、赤外熱映像装置¹⁾による観測では、X 火口及び Y 火口の地熱域の状況に変化は認められませんでした。

¹⁾ 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震活動（表 1、図 1、図 5）

火山性地震は一日あたり 0～2 回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 6、図 7）

GPS 繰り返し観測では、火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

○ 噴火警報、噴火予報の発表状況（12 月 6 日現在）

気象庁は平成 19 年 12 月 1 日より、恵山について噴火警報及び噴火予報の発表を開始しました。それに伴い、12 月 1 日に以下のような噴火予報を発表しました。

なお、噴火警報、噴火予報と噴火警戒レベルについては気象庁ホームページを参照ください。

・ 活動状況及び予報警報事項：平常

火山活動は、これまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。恵山の噴火予報・警報は、噴火予報（平常）です。

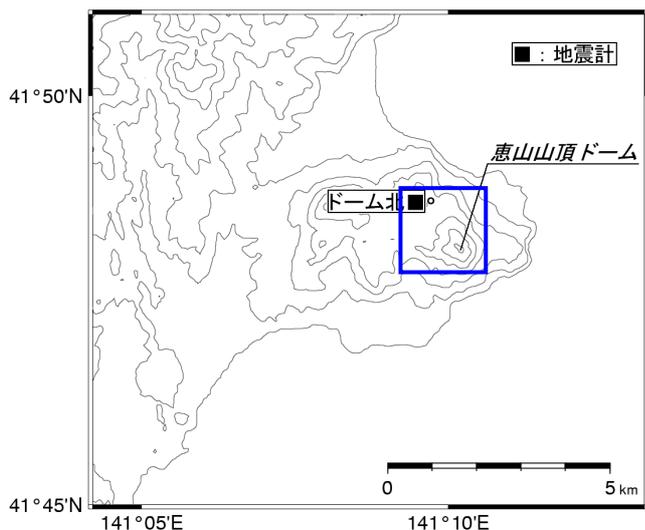


図 1 恵山 地震計配置図

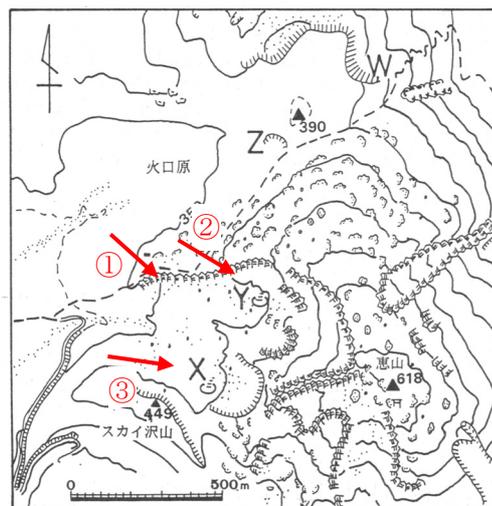


図 2 恵山 火口周辺図
(図 1 の□を拡大)

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

資料中の地図の使用に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 17 総復、第 650 号）。

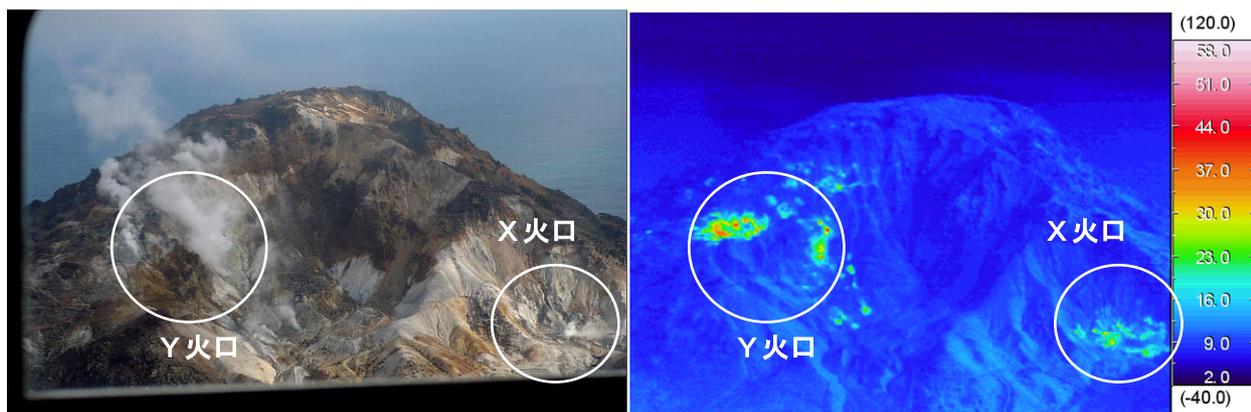


図3 恵山 赤外熱映像装置¹⁾によるX、Y火口周辺の地表面温度分布
(2007年11月13日 図2の①→方向から撮影)



図4 恵山 現地調査による火口の状況 (2007年11月14日
左: Y火口 図2の②→方向から撮影、 右: X火口 図2の③→方向から撮影)

- ・ 溶岩ドーム西側に位置するX火口では火口底付近から10m以下の噴気、Y火口では火口壁上部の数箇所から30~50m程度、また火口底からは10m以下の噴気が認められました。赤外熱映像装置¹⁾で観測した地熱域の分布は、前回(2007年10月)と比較して特段の変化はありませんでした。

表1 恵山 地震・微動の月回数 (ドーム北)

2006~2007年	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
地震回数	12	17	20	19	17	11	28	17	68	78	17	10
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

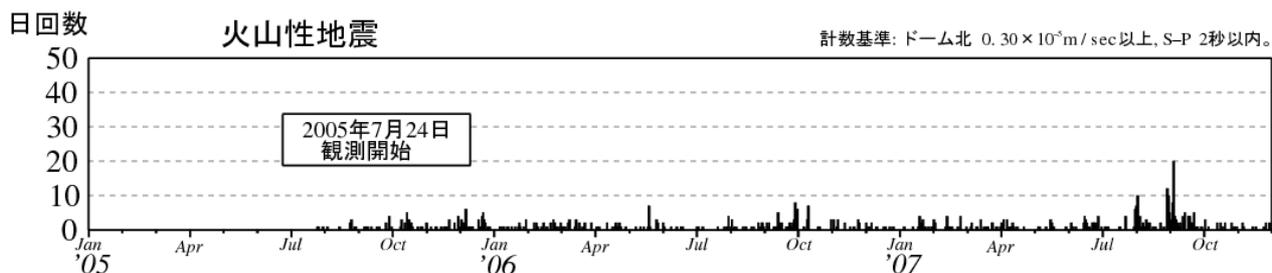


図5 恵山 日別地震回数 (2005年7月~2007年11月)

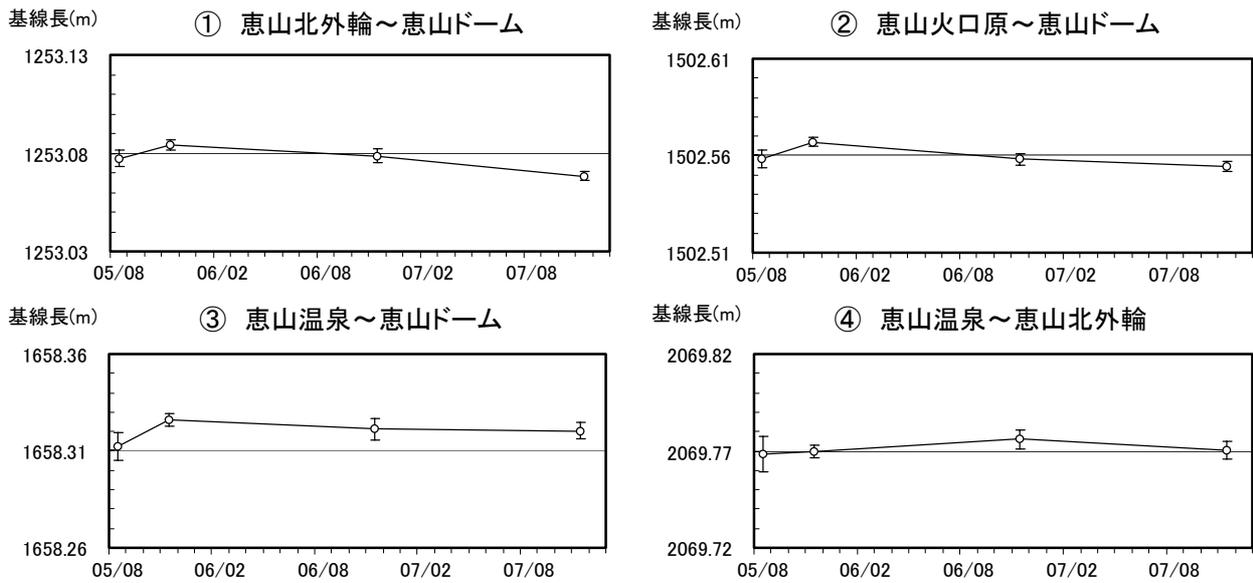


図6 恵山 GPS 繰り返し観測による基線長変化 (2005 年 8 月～2007 年 11 月)

図6の①～④は、図7の①～④に対応しています。

- ・ 今回実施した GPS 繰り返し観測では、火山活動によると思われる変動は観測されませんでした。

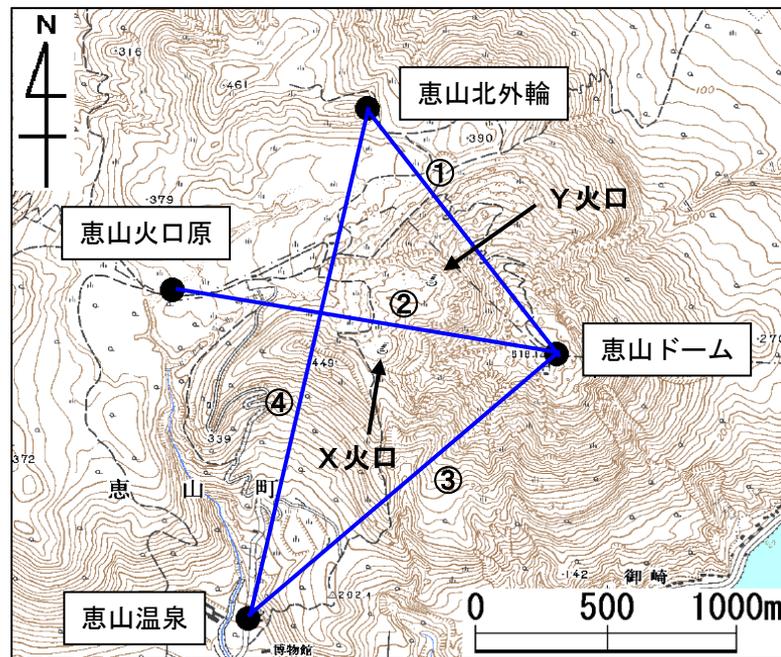


図7 恵山 GPS 繰り返し観測点配置図